

シンポジウム

戦争文学のトラウマ

原爆投下、沖縄戦、そして敗戦。戦争によって刻まれた心の傷はいかに抑圧され、戦後において文学表現の中にいかに再浮上するのか。歴史／記憶／想像力の交わる点を共同討議により探索する。

下河辺 美知子 (成蹊大学、批評理論・アメリカ文学文化)

「Silence と Muteness : アメリカという他者に呼びかける声」

野上 元 (筑波大学、歴史社会学・メディア論)

「誰／何が原爆の恐怖を媒介したのか? : 原民喜における「報告」と「予感」」

森 茂起 (甲南大学、臨床心理学・精神分析)

「誰も知らない時間へ : 大岡昇平と特攻」

西 欣也 (甲南大学、思想史・芸術理論)

「死のlyricismと不死のrealism : 戦争詩をめぐって」

日時 : 2017年8月10日(木) 14:00~18:00

会場 : 甲南大学ネットワークキャンパス東京
(千代田区丸の内1丁目7-12 サピアタワー10F)

入場無料 (事前申込 先着40名)

kihs_info@yahoo.co.jp 宛メールでお申込ください。